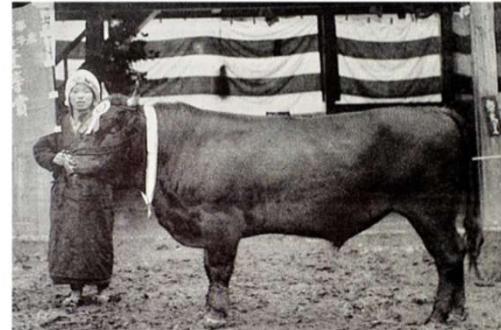
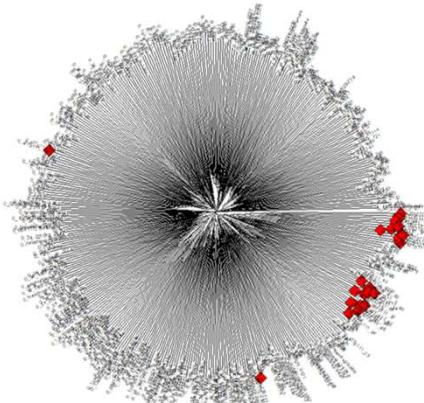


広島大学大学院統合生命科学研究科博士学位論文公聴会

広島和牛の遺伝学的特徴と肉質関連遺伝子の解明に関する研究

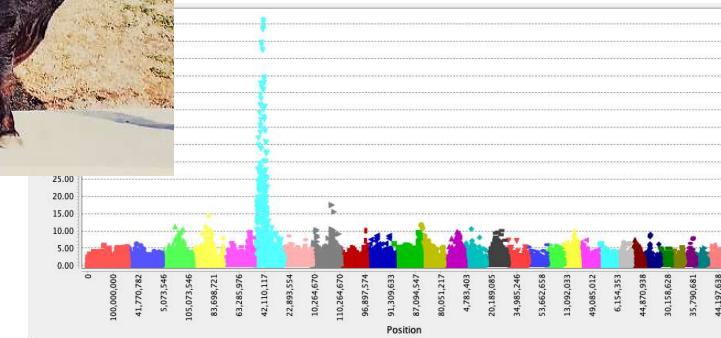
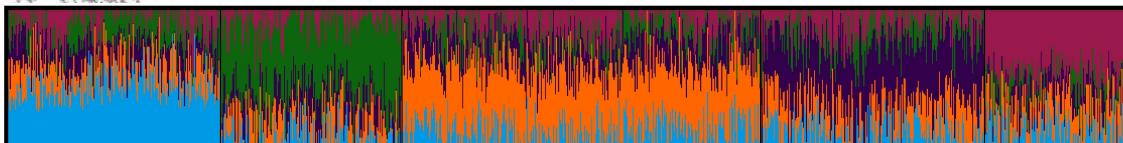
【概要】 広島和牛は、江戸時代から続く在来優良血統「岩倉蔓」を祖先の一つとする黒毛和種である。本研究では、ゲノムワイドSNPデータを用いて広島和牛の遺伝的特徴と産肉性関連遺伝子の解明を行った。集団ゲノム解析により、広島和牛は全国の黒毛和種と比較して外国品種の影響が限定的で、独自の遺伝子資源としての価値を有すること、ならびに県の育種方針の変遷に伴い遺伝的特性が変化してきたことが明らかとなった。さらに、広島血統である「宝栄2」父方半兄弟家系のQTL解析および昭和期から令和期の広島和牛のGWASから、脂肪交雑、肉質、旨味成分に関わる遺伝子領域を検出し、岩倉蔓由来の県固有遺伝資源の可能性が示唆された。これらの結果と集団構造解析の知見を踏まえ、県固有遺伝資源を活かしつつ、質と生産性を兼ね備えた血統の再構築が期待される。



第十野田屋号（血統記録が残る最古の広島血統のひとつ）



宝栄2
(平成初期に活躍した広島血統の種雄牛)



発表者：今井 佳積(生物資源科学プログラム)
日 時：2026年1月28日 14:00～
場 所：生物生産学部 C203

お問い合わせ tyonezaw@hiroshima-u.ac.jp (米澤隆弘)